

Santory Group Health and Wellbeing Report 2026

健康白書 2026

SUNTORY





「^{いのち}生命の輝き」をめざして



鳥井 信宏

サントリーホールディングス株式会社
代表取締役社長

サントリーグループは、「人間の生命の輝き」をめざし、商品やサービスを通じて、お客様一人ひとりの健康で豊かな暮らしに貢献するための、絶え間ない挑戦を続けています。この挑戦を支える基盤となるのが、全サントリーグループ従業員とそこそご家族の心身の健康です。

サントリーは、2016年に掲げた「健康経営宣言」のもと、従業員とそこそご家族が健康でイキイキと働けるためのさまざまな取組みに注力してきました。

健康であることこそが、「やってみなはれ」精神を発揮し、新たな価値創造に向けた飽くなき挑戦への原動力であると確信しています。

これからも、サントリーはグループ全体で健康経営を推進し、従業員一人ひとりがイキイキと輝きながら、「ONE SUNTORY One Family」として、より多くの「生命の輝き」を世の中に生み出すべく、挑戦を続けてまいります。

サントリーグループの企業理念 ～わたしたちが大切にしていること～

わたしたちの目的 Our Purpose

サントリーグループが事業を営む目的、企業としてめざす方向性

人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、
「^{いのち}人間の生命の輝き」をめざす。

わたしたちの価値観 Our Values

目的を実現するために、すべての社員が大切にすべき価値観

Growing for Good

人として、企業として、社会のために成長し続けること。
成長し続けることで、社会を良くする力を大きくしていくこと。

やってみなはれ

失敗を恐れることなく、新しい価値の創造をめざし、
あきらめずに挑み続けること。

利益三分主義

事業活動で得たものは、自社への再投資にとどまらず、
お客様へのサービス、社会に還元すること。



健康を基盤に、挑戦と革新を

小野 真紀子

サントリーホールディングス株式会社
取締役専務執行役員
人財戦略本部長
健康経営最高責任者 (GCHO)



サントリーグループは、従業員一人ひとりの健康を、持続的な成長と価値創造を支える重要な源泉と位置付けています。世界中で変化が加速する中、新たな挑戦を続け、VISION 2035の実現を目指すためには、従業員が心身ともに健康で、いきいきと働けることが欠かせません。

私たちは、2016年の健康経営宣言以降、職場環境の整備や健康支援制度の充実に取組み、健康づくりを支える基盤を築いてきました。一方で、これから求められるのは、従業員一人ひとりが主体的に健康と向き合う「健康オーナーシップ」の実践です。健康を自分ごととして捉え、自ら学び、行動し、継続する。その積み重ねが、個人の健康だけでなく、組織の活力や挑戦する力につながると考えています。

今後も健康をサントリーの文化として根付かせ、一人ひとりが能力を最大限発揮できる環境づくりを通じて、持続的な成長と新たな価値創造を支えていきます。

サントリーの目指す健康経営

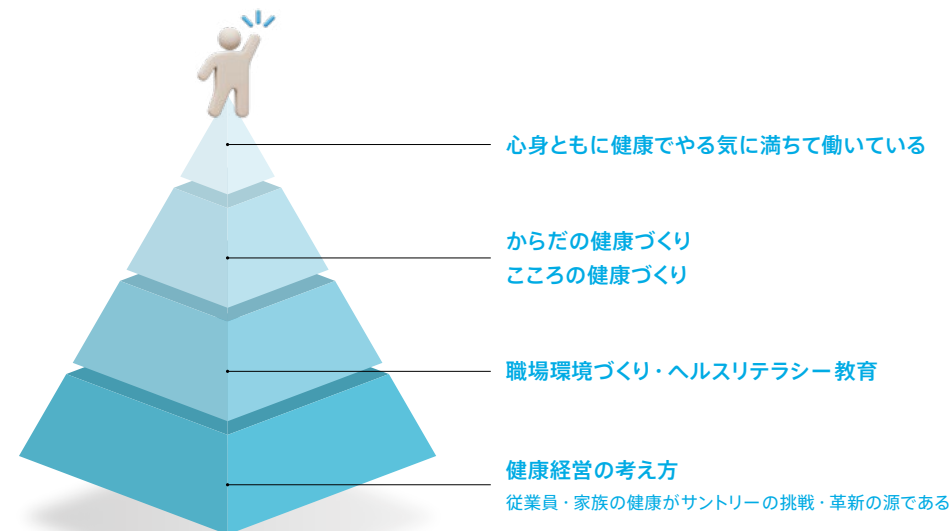
2014年に「健康づくり宣言」、2016年に経営層がGCHO (Global Chief Health Officer: 健康経営最高責任者) に就任し新たに「健康経営宣言」を行いました。

健康経営宣言 (2016年制定)

従業員・家族の健康がサントリーの挑戦・革新の源であるという考えのもと、全従業員が心身ともに健康でやる気に満ちて働いている状態を目指します。

基本方針

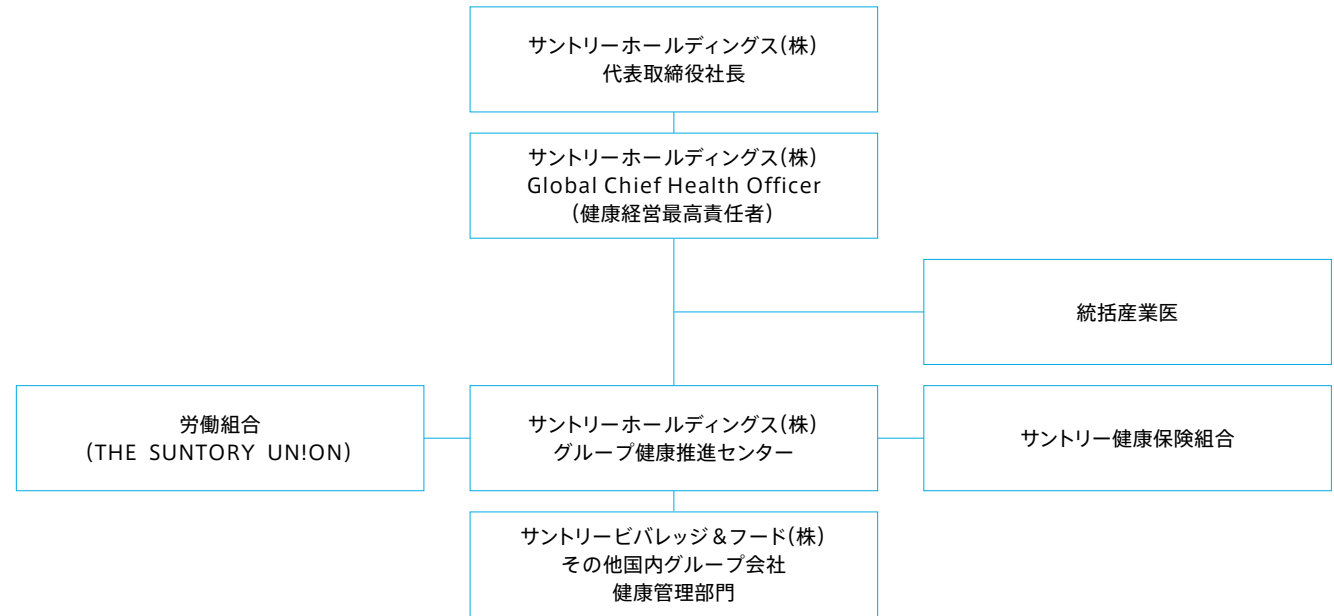
- 職場の環境整備や働き方改革を通して、従業員の健康基盤づくりを推進します。
- 従業員への健康情報の提供や個別支援を通して、ヘルスリテラシー教育に取り組みます。
- 生活習慣の改善とともに予防、早期発見、両立支援など身体の健康づくりを推進します。
- 一人ひとりがメンタルヘルスを理解し、適切に心のケアができるよう支援します。
- 取り組みを通して従業員と家族の“人間の生命の輝き”の実現を目指します。



健康推進体制

代表取締役社長のもと、Global Chief Health Officer (GCHO)を健康経営最高責任者として配置し、グループ全体で健康経営を推進しています。

グループ健康推進センターを中核に、統括産業医、健康保険組合、労働組合 (THE SUNTORY UNION)、各社の健康管理部門が連携し、健康診断やストレスチェックなどの法定施策を基盤に、生活習慣病予防をはじめとする健康増進施策を展開しています。また、国内グループ会社の健康管理部門を支援しながら、従業員の健康保持・増進に取り組んでいます。



実施している主な健康会議

名称	おもな出席者	開催頻度	内容
経営層との協議会	- 取締役専務執行役員 - 人事部門担当役員 - 統括産業医	- 看護職 - 健康管理部門担当者	年2回 会社の方針、健康状況の確認および今後の健康施策等に関する協議
健康管理推進委員会	- 健康保険組合 - 統括産業医 - 看護職	- 労働組合 - 健康管理部門担当者	年3回 サントリー健康保険組合の保健事業・活動について、年間を通じての活動評価・意見交換を行う
グループ会社人事担当者会議	- グループ会社人事担当者 - 看護職	健康管理部門担当者	年1回 各グループ会社従業員の健康状態、推進している健康施策の状況確認および改善に向けての協議
全社安全衛生委員会	- 統括産業医 - 労働組合	- 人事部門労務担当者 - 健康管理部門担当者	年1回 労働組合本部と全社社員の健康状態、推進している健康施策の状況確認および改善に向けての協議
全国衛生管理者・推進者会議	- 各事業場の衛生管理者、衛生推進者 - 統括産業医	- 看護職 - 健康管理部門担当者	年1回 各事業場の社員の健康状態、推進している健康施策の状況確認および改善に向けての協議

戦略マップ



KGI(2030年目標)

プレゼンティーイズム: **90%**
 (約124億円の改善) * 2026年比

アブセンティーイズム: **0.2日**
 (約1.2億円の改善) * 2026年比

特定保健指導基準対象者率: **10%**
 (約0.7億円の改善) * 2025年比

健康経営の重点項目と目標値

サントリーでは以下の項目を目標に掲げ、こころとからだの健康支援に取り組んでいます。



※ 各項目は健康診断の問診結果から集計

健康経営のあゆみ

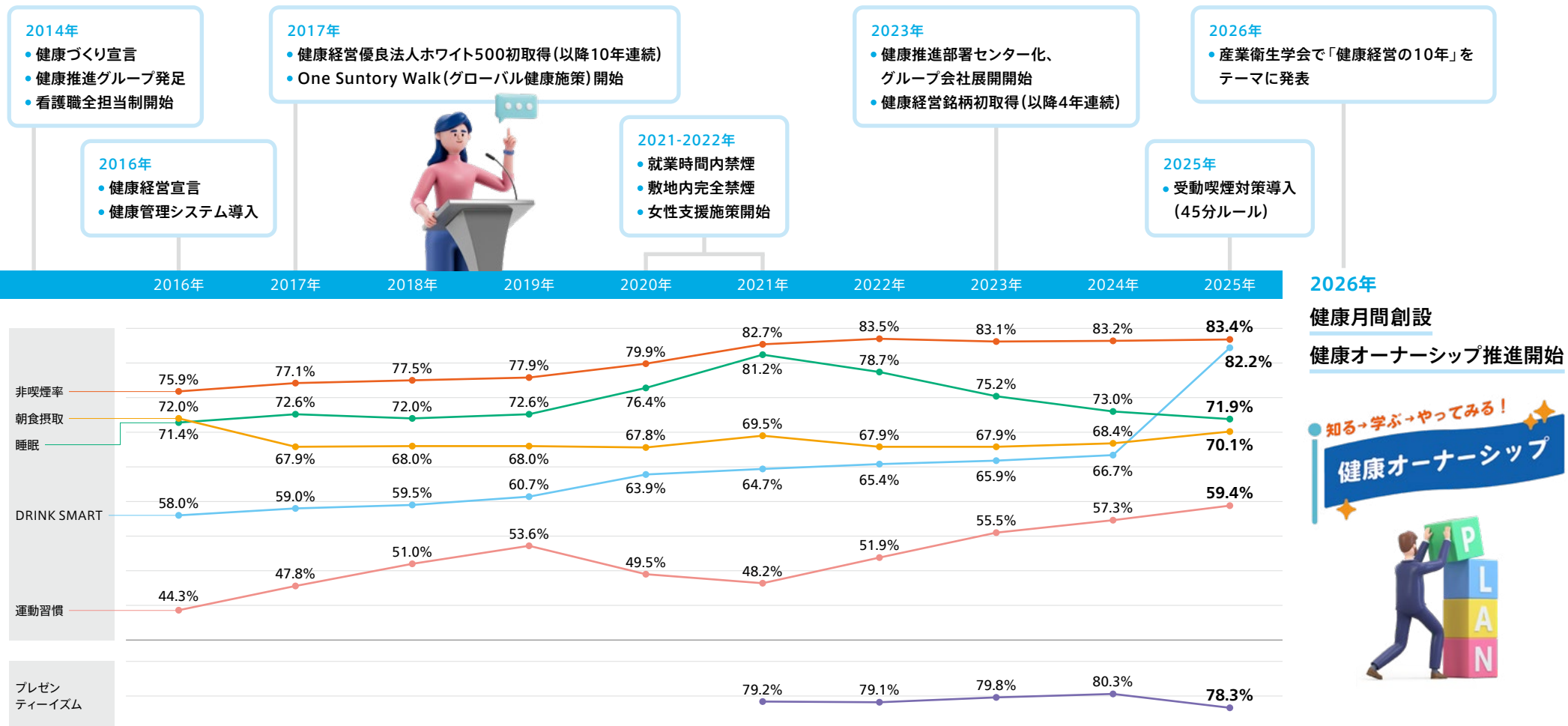
環境整備から 健康オーナーシップへ

2016年の健康経営宣言以降、サントリーグループは従業員の健康を支える制度・環境整備を推進してきました。

担当看護職制、禁煙推進、女性支援、グループ会社への展開などを通じて健康経営基盤を構築し、2023年には健康経営銘柄に初選定されました。

一方で、健康課題の本質的な改善には、一人ひとりの主体的な行動が欠かせません。

2026年を「健康オーナーシップ元年」とし、従業員自らが健康を知り、学び、行動する文化を醸成することで、次の10年の健康経営をさらに推進していきます。



2026年施策マップ

ハイリスクアプローチ



健康合宿



睡眠

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン



女性



シニア

セルフケア



メンタルヘルス



コラボヘルス



One Suntory Walk



喫煙習慣



飲酒習慣



睡眠



食生活



健康の習慣化

社員一人ひとりが行動目標掲げる「健康オーナーシップ宣言」を実施。健康をサントリーグループのカルチャーとして根付かせ、社員一人ひとりが心身ともに健康でイキイキと働き続けられる環境づくりを通じて、サントリーのやってみなはれを支える健康経営を推進してまいります。

知る→学ぶ→やってみる！

健康オーナーシップ

自ら主体的に健康と向き合う
「健康オーナーシップ」

従業員を支える根幹のしくみ



健康相談対応(担当看護職制)



グループ全体の健康支援



健康データの「見える化」



事業所活動



病気と仕事の両立支援

知る→学ぶ→やってみる！

健康オーナーシップ

健康を自分ごとに。全社で取り組む「健康月間」

健康月間で実施した主な施策

- 健康経営最高責任者 (GCHO) メッセージ動画配信
- 部署別ディスカッション (約900部署参加)
- 健康オーナーシップ宣言の実施: 実施率94%
- ランチウェビナー形式の健康セミナー開催
- ウォーキングイベント
- 社食とのコラボレーション企画 (健康的な食行動の促進)



2026年、サントリーグループは4月を新たに「健康月間」と定め、従業員一人ひとりが自ら健康と向き合い、主体的に行動する「健康オーナーシップ」の醸成に取り組みました。

健康オーナーシップとは、「自分の健康に責任を持ち、自ら進んで健康的な生活習慣を築いていくこと」を意味します。その実践に向け、「自分を知る」「学ぶ」「やってみる!」の3STEPを軸に施策を展開しました。

健康月間では、健康経営最高責任者 (GCHO) メッセージの発信に加え、約900部署が参加した部署別ディスカッショ

ンを実施し、健康について対話する機会を創出しました。

また、社員一人ひとりが将来のありたい姿と具体的な健康行動を宣言する「健康オーナーシップ宣言」を実施し、8,500名が参加、宣言率は94%となりました。さらに健康セミナーや学習コンテンツの提供、ウォーキングイベントなどを通じて、健康を考え、学び、行動するきっかけを全社で創出しました。健康を個人だけの課題ではなく、チームや組織の力を高める基盤として捉える文化づくりを進め、今後も健康オーナーシップの実践を通じて、サントリーグループの挑戦と革新を支える健康経営を推進していきます。



部署別ディスカッションの様子



サントリーの健康を支える基盤

担当看護職制

サントリーグループでは、従業員一人ひとりに担当看護職がつく「担当看護職制」を導入しています。担当看護職は日常の健康相談に対応するだけでなく、定期的な健康面談を通じて健康状態を継続的にフォローしています。従業員との対話を重ねながら心身の状態や健康課題を把握し、一人ひとりの主体的な健康づくりを支援しています。

2025年実績

実施者数: **2,647名**
(グループ全体)

施策満足度: (大変)良かった **94.4%**

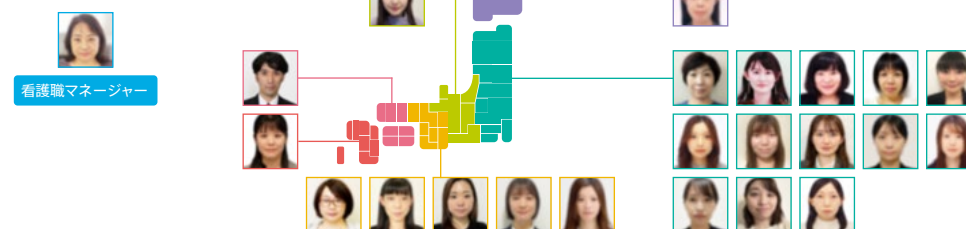
内容理解度: (よく)理解できた **99.8%**



グループ全体の健康支援

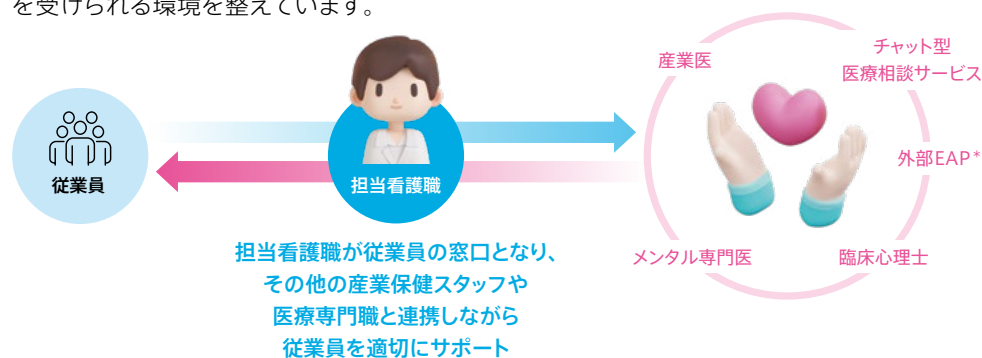
こうした健康支援の仕組みは、国内グループ会社にも展開しています。会社や勤務地にかかわらず担当看護職へ相談できる環境を整えるとともに、グループ共通の健康施策や情報発信を通じて健康づくりを推進しています。サントリーグループ全体で連携しながら、すべての従業員の健康を支えています。

看護職 全国体制



健康相談対応の体制

従業員が抱える健康上の悩みや不安に対応するため、サントリーグループでは社内外にさまざまな相談窓口を設けています。担当看護職が従業員にとって最も身近な相談窓口となり、相談内容に応じて産業医や医療機関、EAPなどの専門機関と連携しながら、一人ひとりに適した支援につなげています。健康や仕事に関する悩みを一人で抱え込まず、必要なサポートを受けられる環境を整えています。



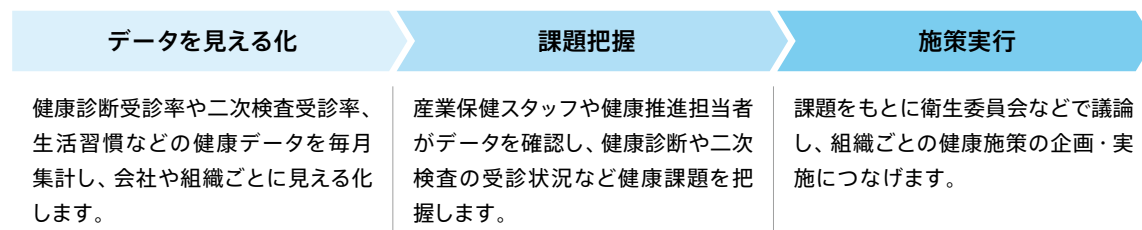
社内相談窓口	看護職	健康面談など従業員との日々の接点を通して従業員が一番身近な存在としてサポートします。
	産業医	統括産業医を中心に、定期健康診断の事後措置や各種面談指導や治療と仕事の両立支援などを行います。
	メンタル専門医	職場のメンタルヘル스에精通した精神科医が産業医や看護職と連携し、従業員をサポートします。
	公認心理士・臨床心理士	心理学の知識に基づいたカウンセリングを行い、悩みを抱える従業員をケアし、問題を解決できるよう支援します。
社外相談窓口	EAP	プライベートや家族の問題などさまざまな悩みについて社外のカウンセラーに相談できる外部サービス
	チャット型医療相談サービス	24時間365日チャットやテレビ電話で気軽に医師に健康相談ができるオンラインサービス

* EAP (Employees Assistance Program) : 社外にいる事業者が提供する従業員支援プログラム。企業からの相談を受けて、ストレス診断・カウンセリング(電話相談・メール相談・対面)・医療助奨・メンタルヘルスの教育研修・人事や管理者へのコンサルテーション・復職支援プログラムなどを行う。

※ 本誌の「サントリー」とはサントリー(株)、サントリーウエルネス(株)、サントリーグローバルイノベーションセンター(株)、サントリースポーツ(株)、サントリービバレッジ&フード(株)、サントリービジネスシステム(株)、サントリーフーズ(株)、サントリープロダクツ(株)、サントリーホールディングス(株)の9社(五十音順)を指します。

健康データの見える化と活用

健康ダッシュボードを活用し、健康診断受診率や二次検査受診率、生活習慣、健康施策参加状況などの健康データを可視化しています。データを活用したPDCAサイクルを通じて、従業員の健康オーナーシップ向上と、より効果的な健康施策の推進を図っています。



社員が参加するコホート研究を実施中 データに基づく健康支援施策の実現へ

従業員の健康状態と生活習慣との関連を明らかにし、データドリブンな健康経営の推進を目的として、2024年よりコホート研究を開始しました。現在、約1,100名の従業員が参加しています。

本研究では、過去5年間に加え、今後継続的に収集する健康診断データと、歩数、運動習慣、食習慣、睡眠状態などの生活習慣データを活用し、健康状態に影響を与える要因の分析を進めています。

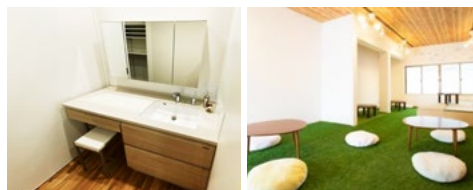
事業所ごとの健康づくり活動のPDCAサイクル

健康推進センターと各事業所の健康担当者が連携し、衛生委員会を通じて事業所ごとの健康課題に取り組んでいます。各事業所が主体的に課題解決に取り組むことで、自律自走型の健康経営を実現し、一人ひとりが健康に働き続けられる環境づくりにつなげています。



2025年の取り組み事例

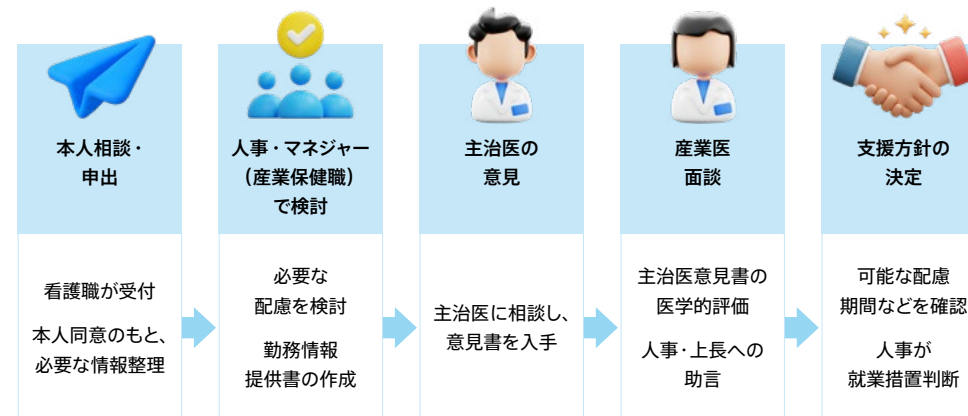
女性従業員の割合が少ない工場では、男性の目を気にせず安心して休養を取れるスペースがないという職場環境への課題に対応し、女性用休憩／休養スペースを設置しました。女性の健康への理解と配慮を職場全体に広げるきっかけとなり、多様な従業員がそれぞれの能力を発揮できる環境整備につながっています。



病気と仕事の両立支援体制

病気や治療を抱える従業員が安心して働き続けられるよう、治療と仕事の両立支援を行っています。ゴールを単に職場へ復帰することではなく、その後も継続して活躍できることに据え、担当看護職を中心に、人事・上司・主治医・産業医が連携しながら、一人ひとりに適した就業上の配慮や支援方針を検討しています。従業員が治療を続けながら安心して働ける環境づくりを通じて、長期的な就業継続を支えています。

職場復帰のフローとフォローアップ体制



ハイリスクアプローチ



健康合宿

未来の健康づくりにつながる予防アプローチ「健康合宿」

特定保健指導対象者の減少に向けてデータを分析した結果、保健指導を通じて対象から卒業する従業員がいる一方で、ほぼ同数の新規対象者が毎年流入していることが分かりました。この課題を受け、新たな対象者の発生を防ぐ予防的な取組みとして健康合宿を実施しました。



健康合宿では、食事・運動・睡眠など生活習慣改善のポイントを学ぶだけでなく、具体的な行動目標を設定します。また、専門家との対話や参加者同士の交流を通じて健康課題への理解を深めていきます。参加者からは、「健康を自分事として考えるようになった」「仲間と取り組むことで行動を継続しやすくなった」といった声が寄せられました。

さらに合宿後は健康アプリを活用し、約半年間にわたり看護職が記録内容を確認しながらアドバイスや応援を実施しています。一過性のイベントで終わらず、日常生活での実践と定着まで伴走することで、継続的な行動変容につなげています。



けんかつちゃん
健康活動を応援するサントリーの
オリジナルキャラクター



睡眠

睡眠の質向上に向けた取組み

健康関連データの分析により、睡眠の質とプレゼンティーイズム*に相関があることが確認されました。この結果を踏まえ、睡眠を重点健康課題の一つと位置づけ、改善に向けた取組みを推進しています。

2025年9月の睡眠月間では、睡眠への理解促進を目的に睡眠セミナーを開催しました。睡眠研究の第一人者である柳沢正史氏を迎え、睡眠の重要性や良質な睡眠を得るためのポイントについて学ぶ機会を提供しました。



講師：柳沢 正史先生
株式会社S' UIMIN 取締役CSO会長
国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IHIS)機構長

睡眠研究の第一人者として、
2026年アルバート・ラスカー基礎医学
研究賞を受賞

今後は、セミナーによる啓発に加え、睡眠の質に課題がある従業員を対象に「睡眠力UP」プログラムを展開し、健康増進とプレゼンティーイズムの向上を目指していきます。

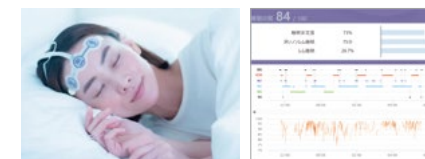
* 病気やケガがない時を100%とした場合の仕事の生産性4週間の平均

「睡眠力UP」プログラム

サントリー×S' UIMIN社×WizWe社の3社で提供するプログラム。

睡眠時脳波測定による睡眠状態の可視化と、行動変容を促す伴走支援を通じて、睡眠の質向上を支援します。

Step 1 脳波測定により、自身の睡眠状態を可視化



測定結果グラフ

Step 2 LINEでの習慣化サポート

日々の睡眠状態に合わせてLINEで丁寧にアドバイス。参加者の睡眠に良い行動継続へのチャレンジに寄り添い、悩みや本音にも答えながら行動変容の習慣化をサポートします。

睡眠力UPプログラムのトライアルでは、参加した約100名においてプレゼンティーイズムが**5.16%**改善しました。



ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン



女性

性差を理解し、誰もが働きやすい職場づくりへ

2026年4月、「だれもが働きやすい職場にむけて」アンケートを実施し、約5,000名の従業員から回答を得ました。アンケートの結果、半数以上の女性が女性特有の不調を抱えながら働いていることや、多くの女性が自身で不調に対処しながら勤務を継続している実態が明らかになりました。また、生理休暇や不妊治療に関する設問では、制度そのものよりも、利用しやすい環境や周囲の理解を求める声が多く寄せられました。さらに、女性の健康に関する施策や取り組みに対する認識には男女差がみられ、性差による健康課題への理解促進や職場風土の醸成が重要であることが見えてきました。



2026年アンケート結果

女性特有の不調: **55%** 不調に対処している: **87%** 不調時でも休まない: **72%**

- 半数以上が「女性特有の不調」をかかえながら働いている
- 女性特有の不調による経済損失 約10億円*

* 計算式: サントリー人件費4,863億円×0.284(女性比率)×0.13×21/365日

アンケート結果を受け、産婦人科医の高尾美穂先生と健康経営最高責任者(GCHO)による対談セミナーを実施します。「個人としてできること」「組織としてできること」をテーマに対話を行い、性差による健康課題への理解を深めるとともに、誰もが働きやすい職場づくりにつなげていきます。



セルフケア



メンタルヘルス

データを活かし、心の健康を支える職場づくりへ

メンタルヘルス活動では、一人ひとりが心の健康への理解を深め、ストレスに気づき、適切に対処できること、また周囲への理解を深め、互いを活かし合う活気ある職場環境を醸成することを目指しています。

各部門長はストレスチェックの職場分析の結果に加え、組織風土調査の結果もあわせて分析し、職場ごとの課題を多面的に把握。人事・組織活性化に関わる部門と連携し、各部の改善活動につなげています。

セルフケア

セルフケアEラーニングでは、自身がストレスを感じやすい場面や傾向への気づきを促し、早めのセルフケアや相談行動につなげる大切さを伝えています。

ラインケア

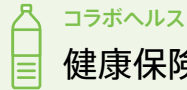
マネジャー向けにはラインケアEラーニングを展開し、部下の変化への気づきや適切な声かけ、相談につなげる力の向上を支援しています。2026年からは、実際の職場で起こり得る場面を想定した分岐型シミュレーション形式を取り入れ、現場で求められる対応力の強化につなげています。



2026年実績

ストレスチェック実施率: **94.5%** ストレスチェックによる高ストレス者: **7.8%**





コラボヘルス

健康保険組合と会社が連携して支える生活習慣病予防

サントリーグループでは、健康保険組合と会社が連携するコラボヘルスを推進しています。健康診断結果やレセプトデータを活用しながら、従業員一人ひとりの健康状態や受診状況を把握し、生活習慣病予防から重症化予防まで、一貫した健康支援につなげています。

特定保健指導

生活習慣病予防の取組みとして、特定保健指導を実施しています。対象者には保健師や管理栄養士による保健指導を行うとともに、サントリーの特定保健用飲料や機能性表示飲料も活用し、健康改善への意識を高めながら、日常生活の中で無理なく健康行動を実践できる環境づくりを支援しています。

受診勧奨

また、健康診断結果やレセプトデータをもとに受診状況を確認し、二次検査や治療が必要にもかかわらず受診に至っていない従業員に対して受診勧奨を実施しています。



特定保健用飲料

重症化予防支援

さらに、将来の循環器系疾患による入院や糖尿病の進行による人工透析のリスクがある従業員に対しては、かかりつけ医と連携しながら専門家による生活習慣改善支援を行っています。糖尿病の進行に伴う人工透析に至るリスクの高い従業員には、血糖値をリアルタイムで確認できる医療機器「FreeStyle Libre」を活用し、自身の健康状態への気づきと行動変容を支援しています。



2025年度特定保健指導実績*1

従業員実施率: **83.9%** 従業員参加数: **855名**

従業員向け施策投資金額: **1,900万円**

●要二次検査・要治療者への受診勧奨
生活習慣病ハイリスク者の治療率*2: **81.8%**

*1 集計範囲はサントリー（株）ほか8社。グループ会社は含んでいません
*2 実人数による率



データを活用した特定健康診断・特定保健指導を行うことにより、早期のアプローチが可能になり重症化を未然に防止することができます



One Suntory Walk

グローバル健康経営×サステナビリティ

One Suntory Walk



Walk! Water! World!

One Suntory Walkは、世界中のサントリーグループの従業員が参加するグローバルウォーキングイベントです。歩くことを通じた健康づくりに加え、国や地域、会社の垣根を越えた交流を促進し、One Suntoryとしての一体感を育んできました。また、参加者数に応じた寄付を通じて安全な飲料水へのアクセス支援を行うなど、従業員の健康づくりと社会貢献を同時に実現する取組みとして、グローバルに展開しています。

2026年に10年目を迎えた本活動は、健康、One Suntoryとしての一体感醸成、社会貢献を三位一体で推進するサントリーならではの取組みとして定着してきました。

今後も世界中の従業員が歩く楽しさや仲間との交流を通じて、健康づくりとOne Suntoryのさらなる一体感の醸成、そして持続可能な社会の実現に貢献していきます。

2026年実績

参加者数: **8,323名**

寄付金額: **\$83,230**
(日本円 ¥12,151,580)

寄付先: **非営利団体
charity: water**

参加国数: **27カ国**

累積参加者数: **66,696名**

累積寄付額: **\$1,001,070**





喫煙習慣

望まない受動喫煙ゼロに向けて

サントリーでは、望まない受動喫煙ゼロを目指し、「就業時間内禁煙」「敷地内禁煙」に加え、2025年11月から「喫煙後45分間は職場に入らない」という3つのルールを運用しています。導入にあたっては、健康経営最高責任者（GCHO）のメッセージを通じて、取り組みの目的と従業員一人ひとりに求める行動を発信しました。

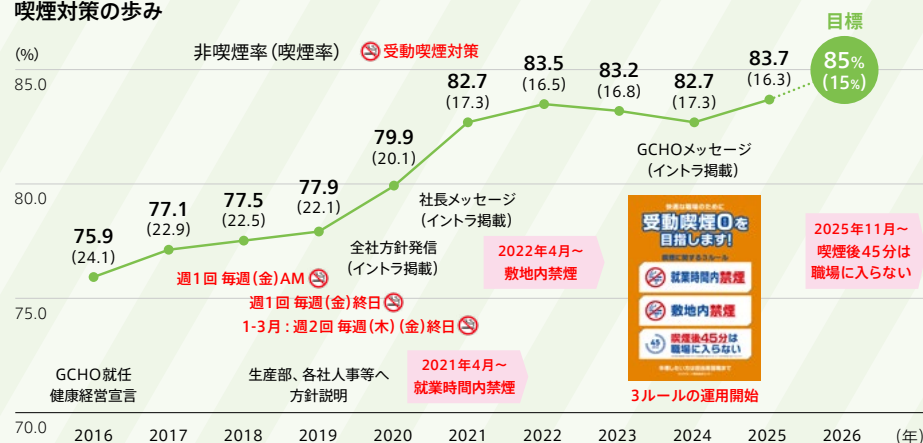
あわせて、ポスター掲示、館内放送、健康コラムなどを通じて、ルールの周知と受動喫煙による健康影響への理解促進に取り組んでいます。また、受動喫煙に関する相談窓口を設け、従業員からの相談に対応しています。

2026年の実態調査では、望まない受動喫煙を毎日または週に数回経験する人が、前年の23%から20%に減少し、喫煙後の呼気に関する認知率は16%から43%に向上しました。

今後も、相談窓口による受動喫煙への対応を継続するとともに、専門家による卒煙セミナーを開催し、卒煙への一歩を後押しします。

受動喫煙防止と卒煙支援の両面から、誰もが安心して働ける職場環境の実現を目指します。

喫煙対策の歩み



飲酒習慣

適正飲酒支援



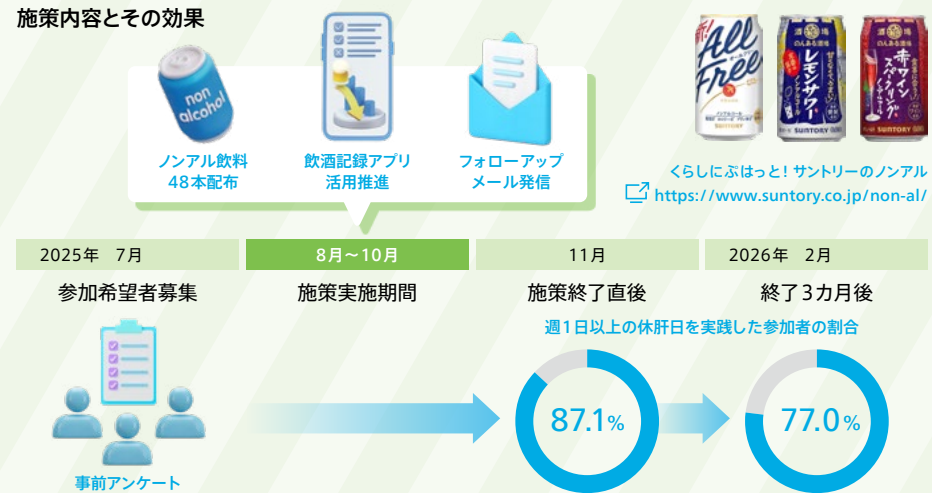
2025年、日常的に飲酒習慣があり休肝日のない従業員を対象に、ノンアルコール飲料の提供に加え、飲酒記録アプリや定期的な応援メールを活用した休肝日支援プログラム「ノンアルdeチャレンジ」を実施しました。その結果、プログラム終了直後には参加者の87.1%が週1日以上休肝日を実践し、そのうち88.4%が3カ月後も継続していました。また、飲酒リスクを評価するAUDITでは、危険飲酒の目安となる8点以上の割合や総得点の改善がみられ、飲酒習慣の見直しにつながる可能性が示されました。

参加者からは、「休肝日の翌日は体が楽」「睡眠の質が良くなった」「健康を意識する良いきっかけになった」といった声も寄せられました。これらの結果を踏まえ、2026年も継続して実施し、適正飲酒と健康的な生活習慣の定着を支援しています。

参加者からは、「休肝日の翌日は体が楽」「睡眠の質が良くなった」「健康を意識する良いきっかけになった」といった声も寄せられました。

これらの結果を踏まえ、2026年も継続して実施し、適正飲酒と健康的な生活習慣の定着を支援しています。

施策内容とその効果



社会の「健康」への貢献

適正飲酒の啓発

2026 TOPICS | 1

お酒に関する正しい知識の普及を通じ、社会の健康に貢献

サントリーグループは、酒類を製造・販売する企業としての責任のもと、適正飲酒の啓発に取り組んでいます。従業員への教育に加え、企業・自治体・大学・一般消費者など幅広い層に向けて、お酒に関する正しい知識を発信しています。

「ドリンクスマイル」を通じて、自分らしいお酒との付き合い方を提案



2011年より、適正飲酒について学ぶセミナーを実施しています。2025年からは「ドリンクスマイルセミナー」として、お酒の価値や魅力に触れながら、自分に合った楽しみ方や選択肢を考える機会を提供しています。

2026年には、若年層を対象とした体験型イベント「ドリンクスマイル大学」を開催。さまざまな体験を通じて、自分らしいお酒との付き合い方を考えるきっかけをつくりました。さらに、一般消費者に向けたモデレーション広告など、日常のさまざまな接点でも啓発に取り組んでいます。

これらの活動を通じて、健康増進をはじめ、飲酒運転やアルコールハラスメントの防止、若年層への教育、飲む・飲まないを含む多様な選択肢への理解促進など、アルコールに関連する社会課題の解決に貢献していきます。

さらに、2030年までに、広告やSNS、Webサイトなどを通じて、適正飲酒に関するメッセージを延べ10億人に届けることを目標に、国内外で啓発活動を広げていきます。



地域を支える「Be supporters!」

2026 TOPICS | 2

Be supporters!

ビーサポーターズ

「人生100年時代における『シニアステージ』の『豊かな生活文化』を提案していく」。「Be supporters! (略称: Be サポ!)」は、サントリーウエルネスのこのミッションを体現する活動の一つです。Be サポ!は「いくつになってもワクワクしたい、すべての人へ」をコンセプトに、高齢者施設の高齢者や認知症の方など日頃は周囲に“支えられる”機会の多い方が、Jリーグの地元クラブの「サポーター＝“支える”存在」になることで、心も身体も元気になることをめざす活動です。2020年から活動を推進し、今では全国約250の高齢者施設・のべ約1万5千人が参加するまでに広がっています(2025年時点)。

Be サポ!では、施設での観戦会や応援グッズづくり、スタジアム観戦などを通じて、日々の暮らしの中に“ワクワクする気持ち”や“役割”とともに、高齢者・職員・地域の人々の間に“つながり”が生まれます。それが高齢者の幸福にどのように影響するかを明らかにする研究も進めています。人生100年時代において、年齢を重ねても自分らしく輝ける社会の実現に向け、Be サポ!を通じた挑戦を続けていきます。

人生100年時代の物語大賞



『あきらめない91歳、転んでも立ち上がるヨシコさんの物語』

何に対しても「やれん(できない)」が口癖だった91歳のヨシコさんは、職員に誘われたBe サポ!で推しの選手ができます。スタジアムに応援に行く目標を立てますが、試合1カ月前に転倒し、痛々しい青アザが。それでも諦めずリハビリに励み、夢を実現させました。

<https://www.youtube.com/watch?v=bQmITRMMLPg&t=1s>



「GREEN DA・KA・RA」熱中症対策啓発活動

2026 TOPICS | 3

学校・企業でのセミナーを通じた啓発活動を展開

サントリービバレッジ＆フードでは、熱中症対策の啓発活動の一環として「GREEN DA・KA・RA」を通じたさまざまな取組みを展開しています。



「GREEN DA・KA・RA」(左)
「GREEN DA・KA・RA やさしい麦茶」(右)

<https://www.suntory.co.jp/softdrink/greendakara/>

小学校での啓発活動

熱中症対策啓発リーフレットを、全国の小学校(約7,900校/冊子・デジタル版計)へ無償で配布しています。

また、授業を通して熱中症対策を楽しく学べるオリジナル教材を開発し、希望する小学校(約280校)へ、製品とともに無償で提供しています。



子どもの熱中症対策啓発活動「こども気温」

2023年にウェザーマップ社と行った共同検証実験結果をもとに、地面からの距離が近く、照り返しの影響を受けやすい子ども特有の暑熱環境を「こども気温」と名付け、店頭ポスターの掲示や啓発イベントの実施など、子どもの熱中症対策啓発活動に継続して取り組んでいます。



企業向け熱中症セミナー

希望する取引企業に対して、オフィスにおける熱中症発生の危険性や予防方法についてのセミナーを2016年から継続して実施し、企業の健康経営をサポートしています。

2026年1～7月実績

参加人数: 159事務所 約19,000名



健康経営取り組み支援サービス「SUNTORY+」

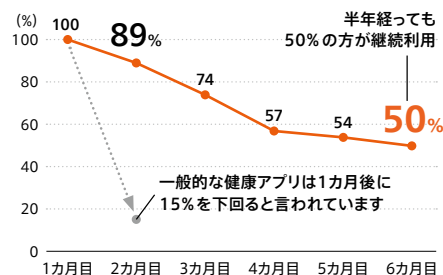
2026 TOPICS | 4

企業の「健康経営」をサポートするヘルスケアサービス



導入から
ご利用まで
0円

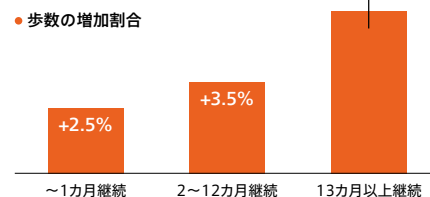
サントリープラスが選ばれる理由



導入後6カ月後も **2人に1人が** 続けられています

※ 調査対象人数: 13,786名 (対象期間中の全ユーザー) 調査対象期間: 2023年9月1日～2024年2月29日 サントリープラスアプリ利用データより抽出 (当社にて実施)
※ 継続の定義: 月1回以上のアプリ起動
※ Adjust Global App Trends 2019レポートより (調査期間: 2018年1月1日～2018年12月31日 adjust株式会社による調査)

サントリープラスを利用しているユーザーは
1年以上の継続で歩数が**6.2%**増加!



続けている人ほど、**どんどん歩数も増えていく!**

※ 2021年1月1日から2024年4月30日までの当社集計データから算出した、各ユーザーのアプリ登録初週に対しての増加割合です。
※ 対象人数は53,142人 (うち、～1カ月: 5,217人、2～12カ月: 33,187人、13カ月以上: 14,738人)
※ 対象者の登録初週の歩数に対して、2024年4月22日週の歩数の増加割合を示したグラフになります。

\\ **2,000社** 以上で導入いただき //

多くの従業員の行動変容を促し、健康行動の継続を支援しています

※ 2026年3月現在

対外活動を通じた「健康に対する貢献活動」

産業保健分野の方々との交流

各方面の有識者とともに「従業員が主役の健康経営」という考え方・在り方の浸透を図っています。

日本産業衛生学会セミナー登壇



「健康の日」サポーター第1号として

サントリービバレッジソリューションは、昨年、健康の日フォーラム事務局より「健康の日」サポーター第1号を拝命し、昨年に続き今年も「健康の日フォーラム」に登壇しました。

「健康の日」の趣旨に賛同し、その活動を応援するとともに、健康経営のさらなる活性化に努めます。



健康経営の輪を広げる活動

健康習慣化・健康イベント



サントリープラスでは健康の日アクションを訴求

コミュニケーション活性化



軽食 (朝食欠食対策)





 <https://www.suntory.co.jp/company/peopleculture/>

「健康経営銘柄2026」に選定

サントリービバレッジ＆フード(株)、並びに上場企業ではないサントリーホールディングス(株)などサントリーグループ9社*は、健康経営に先進的な企業として「健康経営銘柄2026」に選出されました。

また「健康経営優良法人2026～ホワイト500～」は10年連続で認定を受けています。

* サントリー(株)、サントリーウエルネス(株)、サントリーグローバルイノベーションセンター(株)、サントリースポーツ(株)、サントリービバレッジ＆フード(株)、サントリービジネスシステム(株)、サントリーフーズ(株)、サントリープロダクツ(株)、サントリーホールディングス(株)の9社(五十音順)。

